

JOSKAS ニュースレター

発行：一般社団法人 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS)

URL: <http://www.joskas.jp/index.html>

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル (株式会社コングレ内) TEL: 03-3263-5394 FAX: 03-5216-5552

ISAKOS Congress 2015 報告

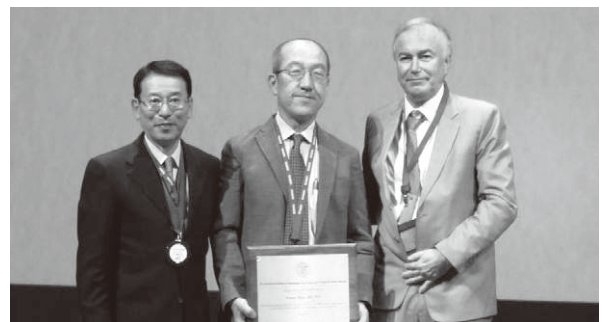


世界の舞台で Asia-Pacificの代表として活躍を

ISAKOS Congress 2015 President | 黒坂 昌弘 先生
(神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 整形外科学 教授)

第10回のISAKOS Congressは、3つのPrecourseと本会議をあわせて、2015年6月6日から6月11日までの間、フランスのリヨンで開催されました。

ISAKOSの創立20周年を迎える記念すべき学会の会長を務めさせて頂き、大変光栄であるとともに、責任の重大性を改めて痛感した学会でした。合計で2,348題の抄録の応募があり、厳正なる最低3名の査読員による査読を経て、口頭での発表の採択率は8.8%、e-posterでの採択率は28%と大変高いハードルでの採択率になりました。頑張っ発表に漕ぎ着けられた先生方に敬意を表します。学会は4,000名を超える参加者が集い、大盛会のうちに開催されました。今回の学会では、史野根生先生(行岡病院)がhonorary memberに選ばれ、盛大に受賞の表彰式が開催されました。全員懇親会の席でフレンチカンカンやムーランルージュのショウなど、いかにもフランスというムードを楽しまれた先生方も多くおられたと思います。ISAKOSは毎年会員数が増え、そして世界の関節鏡、膝、スポーツ医学を専門とする先生方の集いの場になっています。多くの学会賞などが設けられており、その選抜も非常に厳正なcommitteeでの決定で行われるようになりました。世界中には、異なる背景を持つ多くの整形外科医がいるため、各種の委員会のメンバーを務め、英語でdiscussionをしていくのも決して容易ではありません。私が会長を務めた任期の間には、できるだけ多くの日本を代表する先生方に、役職が回ってくるように努力したつもりですが、今後のISAKOSにおける日本の活躍は、すべて若い先生方の頑張りに委ねられることとなります。是非、世界の舞台で、Asia-Pacificの代表として大きく活躍される先生方が輩出されるよう、心より期待し祈っております。



Honorary memberに選出された史野根生先生



会長講演での講演を行う筆者



APKASSのboard meetingでの集合写真

2015 Summit of Asia-Pacific Knee, Arthroscopy and Sports Medicine Society (APKASS Summit 2015)に参加して

愛知医科大学医学部整形外科 出家 正隆

APKASS Summit 2015が、2015年5月8-9日に台湾・台北市のHoward Civil Service international HouseでChih-Hwa Chen教授を会長として開催され、アジア太平洋諸国はもとより欧米からも参加され25か国300名以上と盛会でした。また、日本からもJOSKASの理事・評議員の先生など多くの方が参集されました。プログラムは、Takagi-Watanabe award lecture2講演、Special lectureが9講演、Lunch time seminarが6講演、Symposium lecture48題と盛りだくさんで、一般演題も142題ありました。

APKASSは昨年、広島大学の越智光夫教授が奈良市で開催されたのが第1回大会で、2年に1回の開催予定です。今回はAPKASS Summitという学会名での開催でしたが、内容・参加者数から見てSummitではなく総会といった感でした。APKASSでは、関節鏡がアジア・日本で開発されたことを記念して、初代理事長・会長の越智教授により、開発者である高木憲次教授（日本医科大学）、渡辺正毅（東京通信病院）先生のお名前を冠したTakagi-Watanabe Awardが創設されています。本年は、越智教授とJohn Bartlett教授（Australia, Western Health）が受賞され記念講演されました。

President Banquetは台北101の空中レストランで開催され、素晴らしい夜景と美味しい台湾料理を堪能し、またGala partyは、市内中心にあるHoward Plaza Hotelで開催され、懇親を深めました。次回は、2016年6月9日～11日に香港で開催される予定です。アジアのなかで、日本の力を示すためにも多くのJOSKAS会員が参加されることを希望します。



(Gala Partyでの写真) 左から前会長の越智教授、David Parker先生(Australia Sydney)、次代会長のShi-Yi Chen教授(中国 上海)、今回の会長 Chih-Hwa Chen教授、Myung-Chul Lee教授(韓国)、Kai-Ming Chan教授(香港)

JOSKAS委員会紹介 広報委員会

JOSKAS広報委員会は、2011年6月に札幌での第3回JOSKASで誕生しました。当初、米田 稔委員長のもと私を含め5名の委員で発足しましたが、その任務の重大性のためか(!?)、2015年より2名が追加され、現在では米田担当理事のもと、個性豊かな7名の委員で構成されています。いずれの委員も「広報」の意味するところの「情報発信」を担うに相応しい面々だと自負しています。

発足当初の主たるミッションは、JOSKASアピールのための配布用小冊子の作成でした。ただ、これまでに既刊されている日整会や各分科会からの小冊子とは「別の、もしくはそれ以上のより実践的かつ解りやすいもの」が要求されました。そのため、形式、テーマの決め方、発行時期など、これまでの概念にとらわれない

JOSKAS広報委員会委員長 熊井 司 奈良県立医科大学スポーツ医学講座

発案のもと、現行の「運動器疾患とスポーツ外傷・障害」シリーズの刊行に至っています。これまで各委員の専門分野を生かした5つのユニークなテーマ(1. 膝蓋腱炎 2. 肩腱板断裂 3. ランニング障害 前編 4. ランニング障害 後編 5. 変形性膝関節症とスポーツ)についての小冊子が完成し、いずれも好評を得ています。現在、次なるテーマについて検案中です。

広報委員会として、現在では小冊子の作成に加えJOSKASホームページのデザインや構成、改定など管理業務も行っております。また学術集に併催される市民公開講座に関する議案についての検討も行っています。2015年度には委員会を3回開催し(いずれも全員参加)、これらの任務を円滑に遂行している状況です。今後も、広報委員会による社会への情報発信にご期待下さい!

Something New

逸脱を伴う膝半月板損傷の滑膜幹細胞による治癒促進

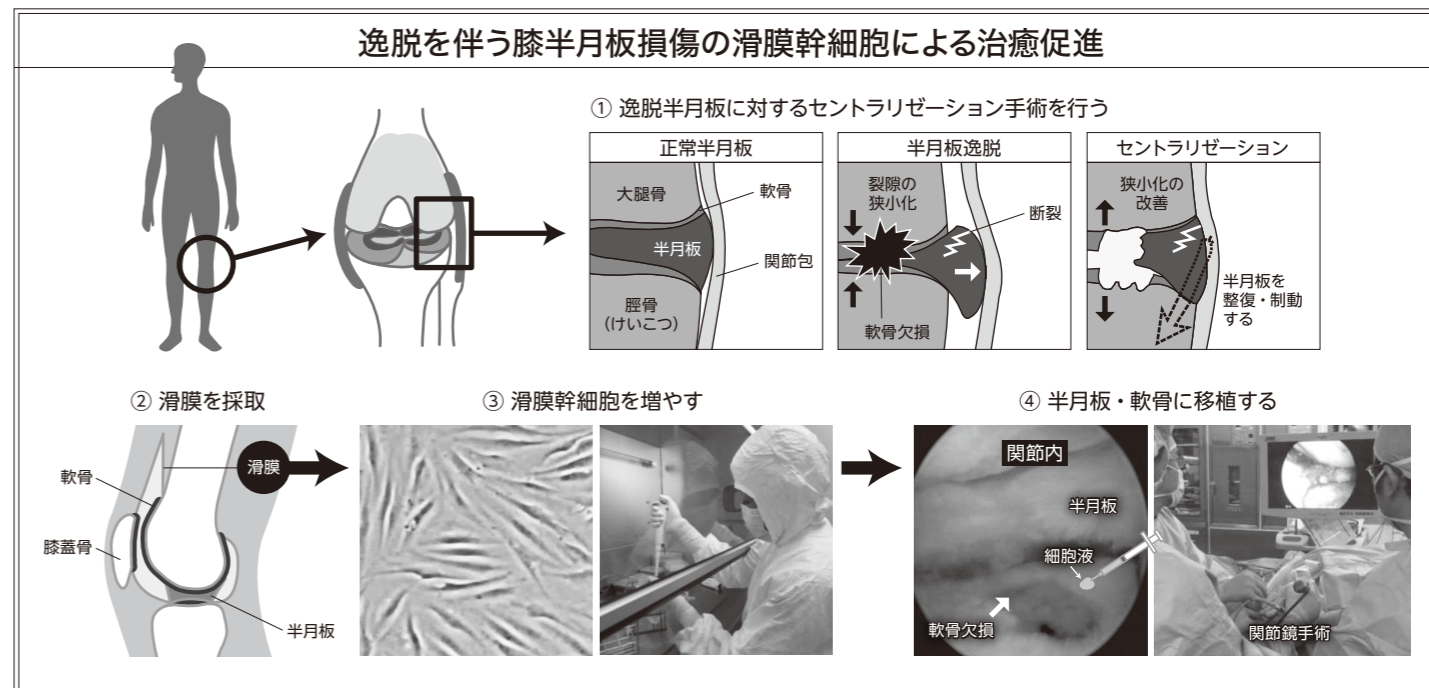
東京医科歯科大学 再生医療研究センター 関矢 一郎

私たちは、滑膜由来の間葉系幹細胞(滑膜幹細胞)は自己血清でよく増殖し、軟骨に分化する能力が高く、滑膜幹細胞の浮遊液を軟骨欠損部に10分間静置すると軟骨が再生することを基礎研究で明らかにしています。2008年には軟骨欠損に対して滑膜幹細胞を鏡視下で移植する臨床研究を開始し、安全性を確認しました。同時に、多数の例で軟骨欠損部が再生し、症状が改善したことを2015年に報告しました(Sekiya et al. Clin Orthop Relat Res. 2015)。

また、半月板を切除した動物モデルに滑膜幹細胞を移植すると半月板再生が促進されることを、これまで示しています。さらに半月板の無血行野に損傷を作成して縫合後、滑膜幹細胞浮遊液を10分間静置すると、滑膜幹細胞は半月板縫合部と周囲の滑膜に生着し、周囲の滑膜組織の誘導を促し、半月板の治癒を促進することを報告しました(Nakagawa et al. Osteoarthritis Cartilage. 2015)。この前臨床研究に基づいて、切除術の適応になる変性の強い半月板損傷に対して縫合術を施行後、滑膜幹細胞を移植する

臨床研究を2014年に開始し、安全性を確認し、有効性を現在解析しています。

若年者では半月板部分切除後に、中高齢者では加齢により、半月板が逸脱することがあります。半月板の逸脱は、半月板の機能低下をもたらす、隣接する関節軟骨の摩耗を加速する重要な病態です。当院では、脛骨に固定したアンカーで逸脱した半月板を修復・制動する鏡視下セントラリゼーション手術を2009年から実施しています(Koga et al. Arthrosc Tech. 2012)。2015年8月から逸脱を伴う膝半月板損傷の患者さんに、セントラリゼーションにより半月板機能を再獲得して、修復した半月板の周囲や関節軟骨欠損部に滑膜幹細胞を移植し、半月板・軟骨の再生を期待する再生医療を開始しました。これは2014年11月に施行された再生医療等安全性確保法に基づき、体性幹細胞を用いた第2種再生医療等提供計画のなかで初めて受理されたものです。本研究により、変形性膝関節症の再生医療への発展が期待できます。



編集後記



今夏は台風で始まり台風で終わりましたね。気温にもメリハリがありました。学会員の皆様もJOA、APKASS、ISAKOS、JOSKASと一連の学会に参加され、学生の手術の需要が多い夏休みが終わり、一息ついて秋の陣といったところでしょうか。

JOAやJOSKASでは質の高い講演が多く、特にJOSKASでは聞きたい演題が多く、体が2つほしいと思える内容でした。まして国際学会では、世界の潮流を把握することができ、刺激の多い内容ばかりです。学会員もどンドン外に打って出る気概が必要です。

今回は新しい企画として、JOSKAS委員会の現状とSomething Newというコーナーを設けてみました。これらの企画はニュースレター委員からの提言で生まれたものです。写真はJOAの際の、委員会での集合写真です。今後も皆様に楽しんで読んでもらえるような内容を提供していきます。

ニュースレター委員会 委員長 高橋 成夫(三菱名古屋病院)